

教育費は家計全体の中で、 どれだけ使えるかを見極めることが重要。



小学校や中学校までは、親の選んだ進路でも成長するにつれて子ども自身の希望が明確になってきます。その希望に応えるためには、早めの教育資金の準備が必要です。そこで実際にかかる教育費や準備を始める時期などをファイナンシャル・プランナーの豊田真弓さんに伺いました。

子どもに「してあげたいこと」と「実際にしてあげられること」がイコールでない場合もある。

現在は、昔のように右肩上がり収入が増えるということは期待できませんので、自分たちが親からしてもらったことを、そのまま子どもにしてあげることが難しくなっています。

つまり、子どもに「してあげたいこと」と「実際にしてあげられること」がイコールではない場合もあるということです。

そのため、子どもに希望する教育を受けさせるためには、できるだけ早く教育資金の準備を始めておくことが大切になります。そして、子どもの進路について、特に高校、大学は公立か私立か、文系か理系かなど、子どもの成長に合わせて、家庭で充分に話し合う必要があると思います。

高校、大学と家計の中で吸収できない教育費は、できるだけ早く準備しておくことが大切。

まず、実際に教育費がどれくらいかかっているかをご紹介します。幼稚園、小学校、中学校、高校が公立、大学が国立の場合、平均で合計793万円になります。金額を見ると大きいのですが教育費は一度にかかるものではありません。

公立小学校は6年間で平均175万円ですが、これを月割りにすると約2万4千円、公立中学校は3年間で平均131万円、月割りにすると約3万6千円となります。中学校は少し厳しくなりますが、毎月の家計の中でまかなえると考えていいでしょう。

公立高校は3年間で平均159万円、月割りにすると4万4千円と高くなります。この中には大学進学の場合の塾の費用も含まれていますが、私立の場合はさらに倍近くの

費用が必要となります。

そして教育費で一番高いのが大学です。授業料などの学費の他、生活費も含めれば、国立で平均282万円、私立で平均579万円です。

つまり、高校、大学と家計の中で吸収できない教育費を、早い時期から教育資金として蓄えておくことが大切だといえます。

教育資金の準備は子どもが0歳からスタートして小学校・中学時代が貯め時。

教育資金は子どもが生まれた時点でお金がかかる時期がわかりますから、計画的に準備がしやすい資金です。

先ほど教育資金の準備はできるだけ早くといいましたが、私は子どもが0歳の時からスタートして、少しずつ、コツコツと貯めていくことをおすすめしています。幼稚園は私立が多いためその場合は貯蓄するのが厳しいかもしれませんが、小学校・中学校が公立であればこの時期が一番の貯め時となります。

教育資金を積み立てる場合は、専用の金融商品にこだわらず、職場での一般財形や金融機関の積立商品などから家計に合ったものを選択されると良いと思います。

また、こども保険などの商品もありますが、保障ではなく「貯蓄」を目的に加入するの

子どもの教育費総額

	公立	私立
幼稚園	46万円(2年間)	105万円(3年間)
小学校6年間	175万円	(調査なし)
中学校3年間	131万円	370万円
高校3年間	159万円	309万円
大学4年間	282万円(国立)	579万円

出典:文部科学省統計資料「データからみる日本の教育2004」
 教育費総額には、学校教育費、給食費及び学校外活動費が含まれています。(大学は学費の他、生活費も含まれています)

であれば、元本割れしないかを必ず自分で計算して、納得できるものを選ぶように注意してください。

教育ローンは金利が低いものを、老後の生活を考えて借入れは少なく、返済は短めに。

進学前に受験費用や入学金、授業料などが足りない場合は、奨学金や教育ローンを利用する方法もあります。

奨学金は子どもの成績や親の年収などについて条件がありますので、早めに内容を確認しておく必要があります。



教育ローンは、当然のことですが金利が低いものを選ぶことです。老後の生活を考えると、借りる金額は少なめに、返済期間は短くということが基本になってきます。

家計全体のバランスを見て無理のないプランを立てるためにも、家計全体の収支を一度シミュレーションしてみたいかがでしようか。

これからは親だけでなく子どもも経済的に協力することが求められる時代に。

子どもの希望や夢をかなえさせてあげたいという気持ちは、親であれば皆さんお持ちだと思います。

しかし、人生80年、90年という時代ですから、親が自分たちの老後資金を貯められなくなったり、家計を圧迫するような教育資金のプランは避けなくてはなりません。

これからは住宅ローンや生活費、老後資金の貯蓄など家計全体の中で、教育費がどれだけ使えるかを見極めることが重要になってきます。

そして、親だけが負担するのではなく、

子どもも奨学金を利用したり、大学生になったらアルバイトをするなど、自分の夢をかなえるために経済的に協力していくことが、求められる時代になっていくのではないのでしょうか。

profile ファイナンシャル・プランナー
豊田真弓 (とよだまゆみ) さん

マネーカウンセリングネット「Wealth(ウェルス)」メンバー。20代前半より経営誌、経済誌ライターなどをベースに個人事業を展開。1995年から独立系FPとして活動。現在は、ファイナンシャル・プランナー、ファミリーリスクコンサルタントとして、新聞や雑誌、ウェブサイトへの寄稿、記事の監修、セミナー講師などを務める。一児の母。

発行物紹介
 「サラリーマンの家計簿 生命保険・住宅ローン・教育費・投資 ここまで見直せる!」
 Wealthメンバーによる共著 出版社:実業之日本社 価格:1,470円(税込)
 老後の生活費はいくら必要か、住宅ローン破綻をしないためにはどうすればいいかなど、自助努力で老後資金を作る時代に必要な、大規模な家計の見直しを伝授。

Look at ROKIN!

幼稚園から大学まで、子どもの教育資金に!

幼稚園から大学・専門学校までの受験料や入学金、授業料、学用品、下宿の敷金・礼金、留学費用(6カ月以上滞在)などに、また他行からの借換えにもご利用いただけます。

パッケージローン

教育プラン 年 **1.975%** **特別金利 変動金利型**

ご融資利用枠(限度額)最高500万円 会員以外の方は最高300万円となります。
 最長10年 無担保

教育ローン 年 **2.1%** **特別金利 固定金利型**

最高500万円 最長10年(別途、据置期間として最長5年設定可) 無担保

24時間いつでも、ローンのご相談・仮審査申込みを受付中!

<http://chuo.rokin.com>

モバイルサイト(携帯電話)でも「ローンのご相談」を受付中。

特別金利の適用は2005年4月28日までとなります。(金融情勢の変化により、金利は変更となる場合があります)
 パッケージローンRing教育プランには、固定金利型(特別金利年2.1%)もご用意しています。
 別途、0.7%~1.2%の保証料が必要となります。
 パッケージローンRingは所属労働組合により、ご利用いただけません場合があります。
 審査の結果、ローン利用のご希望にそえない場合があります。
 店頭にて説明書をご用意しています。